

テーマ「高校受験」

日時：9月4日（日）

場所：栄オアシス校

対象：高校受験生とその保護者

◆講演1／講師 山中 ■■

大学入試の変化を見据えて、変わる高校入試

今年度の中3生の受験時から、高校入試も変わります。愛知県の公立入試では、これまでの20問から2問増えて22点満点になり、増えやされるのは、より思考力を問う問題。なぜなら大学入試が、世の中で必要とされるその力を問う問題になりつつあるからです。ひとつ下の学年から大学入試制度が大きく変わりますが、上の学年までは昔のままというわけではなく、変更を踏まえて思考力を問う問題に変わると思われます。従って公立高校の入試もそのように変えて行こうということです。時間も40分から45分になり、つまり1問当たり30秒で、思考力を問う問題も解かなくてはなりません。また、日程も変わります。今まで公立高校はスポーツや文化面で優秀な成績を残した人の推薦入試は別日程で、面接のみだったのが、**同日**で学力試験も課されるようになります。スポーツを頑張っているから大丈夫、ではなく、スポーツも頑張る、学力も必要というようになっています。

そうした変更点が、愛知県の各高校の合格ボーダー表にも書いてあります。目安になる内申点や偏差値、あと注目いただきたいのが平均点。5教科の平均点で一番低いのは英語です。英語は6～7年前はほぼ満点で、国語と並んで平均点の高い科目でした。ところが最近、英語が難しくなっています。大学入試の英語が変わりつつあることから運用能力を問う問題になってきており、単に熟語や文法を覚えるのではなく、実際に使う練習をしていかないと点数が取れないというのが最近の傾向です。

成功には強い意志と戦略、成長には自修力

高校入試を控える生徒に伝えたいことは3つ。まず、「強い意志」を持ってほしい。先日のオリンピックではギリギリの場面での逆転劇が多くありましたが、あれが可能だったのは最後まで諦めない強い意志があったからでしょう。2つ目は「戦略」を持つということです。とにかく勉強すればよいのではなく、入試がどう変わり、重点がどこに移っているのかを踏まえ、何をやらなければいけないかを考えてください。3つ目は「周りのサポート」の大切さ。受験生を支える多くの人、お父さんやお母さん、そして我々のようなスタッフがいます。我々は受験、勉強を惜しみなくサポートします。ご両親は精神面や生活面での

サポートを十分にさせていただきたいと思います。その3つがあって、受験が成功します。

成績を伸ばすために必要なのは、自修力、自分で勉強する力です。ただしこの力は、かなり勉強が進んでレベルが上がらなるとつきません。授業で勉強したことを踏まえ、自分の弱い所が分かっただけで焦点を絞って勉強することです。自修だけでいいのかと勘違いするかもしれませんが、それは違います。授業をきちんと受け、分からない所を教えてもらったうえで、目的が分かって勉強しなければ自修力はつきません。これからの追い込みで自宅での勉強も必要になりますが、塾で学んで先生からアドバイスをもらい、きちんとした戦略を持つことで本当にぐんぐん伸びていきます。

目の前の目標を一つひとつクリアし、志望校合格へ

偏差値を見ると、得点率は旭丘が91%、明和が90~91%。尾張地区のトップ校では90%ではならず、91%ほどが必要です。三河の岡崎や時習館では88~89%が求められます。基本的な問題が中心で応用的な問題が2問ですが、簡単には取れません。学校で上位に入っている人も2月辺りで80%の前半位です。そこから愛知県の公立入試に合わせた勉強をすることで、最終的に90%を超えることが可能です。それも、私立入試に向けた応用力中心の学習をしている、学年末試験で中3の範囲を全て踏まえた勉強をしている、中間・期末テストの勉強を通して各単元の内容をしっかりと身に付けている、というのが前提です。

これから目の前にある中間テストに向けて120%エネルギーを注いでください。その後の期末テストも同じく。目の前の目標を一つひとつクリアしていくことで、志望校合格の得点率が得られるはずですよ。

数値を常に意識してください。目標がないと戦略もできませんので、2年生はまず目標を確認してください。3年生は、1学期の通知表で少し足りなかった場合もあると思いますが、それを挽回することが大切です。改めて行きたい学校、求められる内申点を意識し、それをどう取るか考え、今どこに到達しており、何をやらなくてはいけないかを逆算し、強い意志を持って実行する。これが先輩たちも行ってきた王道ですよ。

◆講演2 / 責任者 森浩晃

内申点と「生きる力」

ある生徒が教えてくれた、内申点の上げ方です。その生徒さん曰く、「簡単です。私は5ポイント上がりました。授業中に先生の目をずっと見ていればいいのです」。先生が見回した時、よそ見していたり、ノートも取っていないのに下を向いていたりという態度だと、少々点を取っていても内申点はもらえません。授業に積極的に参加している、また、挨拶ができるなど、文部科学省の言う「生きる力」が求められます。中間や期末テストで測る

ことができる項目と生きる力の割合は、各学校に任されています。誰が何回手を挙げたかも記録する、それが愛知県の傾向。先生に媚びる必要はありませんが、覚悟して授業に臨まないといけません。

なお、内申点があった人で、社会に出てから仕事ができない人はほとんどいません。生きる力があるから、会社でも先輩に可愛がられます。

これから受験まで、全身全霊を傾けて内申点を取り、かつ実力をつけてください。ジェイサチは学年の枠がないので、どんどん先に進むことができます。夜の3時間と朝の1時間は同じ学習効果と言われています。良い睡眠を取り、朝5時に起きて勉強してください。そして、上のランクの学校に合格しましょう。

◆講演3／責任者 森幸子先生

生粋の名古屋っ子として付け加えます。この地で働いていくには、どこの学校を出たかと内申点がずっと関わってきます。高校、大学、各分野、あらゆるところで結びつきの力が強いのがここ名古屋です。内申点がいくつだったか、ずっと聞かれます。なお、ジェイサチの先生はほとんど内申点44~45の方たちです。

3年間のおさらい、逆算から1日ずつ確実に

山中先生から、まず中間テストの範囲をしっかりとやりなさいとの言葉がありました。その範囲が1年生からなのは千種台だけです。3学期に復習しようとした時に抜けてしまっているのが社会や理科。1学年の教科書が100ページとしたら、3年間で300ページやらなくてはいけない。あと150日です。300ページが5科目なら1500ページ。実際はもっとあるよ。これ、どこでやるの？1週間、1日で何ページ進めることが必要か、逆算してやらないと間に合いません。社会が一番分かりやすいので、見てください。教科書、問題集、また教科書に戻ってくる。その底辺知識を持っていないと、今はプラスアルファの問題が出るので、当日に90%以上取るのは難しいです。

自修力=ただ習うのではなく、修める

これも山中先生が仰られた、点が取れない子が自修しても力はつかないということ。証明されています。一昨日、中1の子と夏期講習後の入塾検討で面談した時、「非常に優秀な子です」とご両親。「全く勉強しないで内申点が41、平均点が91点。だから優秀です」。中1です。90点以上取れて当たり前です。「東海の子は中1の1学期で学年の最低が92点、平均は97点です」と、認識不足を指摘しました。カルテに「新しいことをなかなか覚えられない、計算問題をよくミスする」とあり、本人に「不本意でしょ？」と聞くと、不本意

の意味がわからない。「辞書は引くの？」と聞いたら、「引きますが、何が書いてあるかわからない」と言います。そこで、英和辞典で it を引いてもらいました。主語、述語はわかるが主部や目的格の意味はわからない。気象を表す時の it は訳さなくていいという所で混乱です。こういったことを自分のものにしていくのが自修力。私どもでは「修める」と書きます。ただ習うのではありません。それには基本ができていて、辞書も引けなくてははいけない。(師がいなくとも自分で) 学問を修める力を持っていないと成績は上がりません。教科書を読んでも理解できないままになってしまいます。聞いた、知っている、ではダメ。修める力を持っていないと、内申点 40 以上に行けません。そこが足りないんだよ、みんな!!! 大切なことを自分にしっかり入れないといけないのです。

内申点は副教科が入っていますが当日は 5 科目です。トップ校は、5 科目は 5 でないと、平均点 90 点以上でないと受かりません。そして、スピードです。テキストをやる時も、決めた時間内でやって、採点後に復習する。4 を取る人はできなかった問題だけをやる。5 を取る人はできたところもやる。経糸も横糸も斜め糸もバッチリやると、基本ができているから、難しい問題も解けるようになります。

時間割を決め、1 週間は月曜から土曜までと思って 6 日間で割る。どうしても残ったものを日曜にやる。その繰り返しの 5 ヶ月で、勝負が決まります。